

公表

事業所における自己評価結果

事業所名 放課後等デイサービス 学校法人子どもの森 発達支援SmileOn

公表日 2025年12月1日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	3	個室のような空間を工夫していきたい。関連施設と協力しスペースを極力有効に使うようにしている。	広さは基準を満たしておりますが、「個室のように落ち着ける空間づくりをさらに工夫したい」という意見があります。支援の中では、必要に応じ隣接する事業所や法人内の部屋を使用することもあります。移動に職員が同行する必要があるため、集団療育室内の職員配置が一時的に不足するという課題が話し合いの中であり、検討しながら進めています。また、一旦場所を移動すると戻ってくることに難しさがあるお子さまもいます。一方で、小学校と同様に「活動場所を移動して戻る」という経験は、切り替えの力を育む機会にもなると捉えています。今後は、集団療育室内の簡易バーデーションを増やす等、環境調整による個別スペースの確保や隣接する部屋の活用方法を工夫し、限られた空間をより効果的に使う取り組みを進め、子どもたちが安心して活動に取り組める環境づくりに努めてまいります。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9	2	毎日カンファレンスを行い必要な箇所に人員を配置できるように努めている。マンツーマンで対応が必要な子に対して職員の人数が足りていない時がある。	常勤6名（見発管を含む）・非常勤5名の計11名の職員体制で支援を行っています。日々の支援においては、当日の担当者1名が全体の進捗と状況把握を行い、その他の職員は利用児童への直接支援を行う体制をとっています。マンツーマンでの支援が必要なお子さまが複数在籍する日には、限られた職員数の中で支援配置の調整が生じる場面もありますが、子どもたちの状態を踏まえ、毎日のカンファレンスで情報を共有しながら適切な配置に努めています。今後は、お子さまの「できる力」を尊重しつつ、必要な場面的に的確に見極めて関わる支援力の向上、職員同士が相互に判断したり、必要な支援を依頼し合える連携力の強化を重点課題として取り組み、より質の高い支援が行える体制づくりを進めてまいります。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	11	0	掲示物が最小限に抑えられている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	11	0		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	11	0	バーデーションなどを使って実施している。廊下や別室が用意されており療育室とは区切られている。隣の施設の個室を利用することができる。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	11	0	全体で話し合う機会が設けられている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11	0		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11	0	毎日共有や振り返りの会議をしている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	11	0	様々な専門家の先生方からアドバイスをいただいている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	11	0		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	11	0		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	11	0	週1回全員が参加するカンファレンスを開いている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	11	0	週1回全員が参加するカンファレンスを開いている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	11	0	週1回全員が参加するカンファレンスを開いている。	

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	11	0		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	11	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	11	0	毎日プログラムに関する共有・検討の時間を設けている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	11	0	週毎にテーマを決め工夫をこらしたプログラムにしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	11	0		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	11	0	支援前と後で常に話し合いをしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	11	0		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	11	0		
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	11	0		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	11	0		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	11	0		
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	11	0		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	11	0		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	11	0		
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	11	0		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8	2	まだ対象のお子さんがいらっしゃらない為。学校卒業者の移行の際の情報共有の経験をしていない。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	11	0		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	10	1		外出先として児童館を利用したり、放課後児童クラブを利用しているお子さまが事業所を併用利用されております。地域の他のお子さまと交流する機会の企画を検討してまいります。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	10	1	あまりわからない。	自立支援協議会（子ども部会、相談支援部会）に参加をしています。伝達の方法は朝礼又は終礼にて共有し回覧（紙媒体）のみの為、職員会議などでその役割と話し合われている内容を報告する様に努めます。

保護者への説明等	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	11	0		
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	11	0		
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	11	0		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	11	0		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	11	0		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	11	0		
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	11	1		保護者参加型の「座談会」を実施しています。また、その中できょうだい児に関するご相談やその保護者同士の相互交流の機会はございますが、きょうだい同士で交流する機会は現在設けていない為企画していきます。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	11	0		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	11	0	HUGにて発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	11	0		
非常時等の対応	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	11	0		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	3		地域とのつながりを大切にする取り組みとして、地域の高齢者団体の皆さまに絵本の読み聞かせボランティアをお願いするなど、外部の方との交流の機会を設けています。一方で、通所していることを周囲に知られたくないという意向や、個人情報保護の観点から、地域住民を広く招いての行事開催については慎重に検討しております。今後も、子どもたちやご家族の安心・安全を最優先にしながら、地域との関わりを適切な形で進めていけるよう努めてまいります。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	11	0		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	11	0		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	11	0		
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9	2	対象児なし。対応が必要なアレルギーのお子さんがないため。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	11	0		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	11	0		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	11	0		

	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10	1	虐待の研修機会を増やした方がいいかと思 います。	虐待防止に関する職員研修を今年度5回実施しており、研 修機会の確保に努めています。また、ヒヤリハット事案 などが発生した際には、手順に沿って職員間で共有・話 し合いを行い、改善点を職員会議で確認し記録として回 覧するなど、日々の業務の中でも意識を高める取り組み を行っています。 今回、職員から「研修をさらに増やした方がよい」との 意見があったことを受け、虐待防止の視点は日常的な意 識づけが特に重要であると改めて感じました。今後は、 より継続的で実践的な研修機会を増やし、全職員の支援 の質向上につなげてまいります
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決 定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後 等デイサービス計画に記載しているか。	10	1	対象児なし。	

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス 学校法人子どもの森 発達支援SmileOn		
○保護者評価実施期間	2025年 10月 21日 ～ 2025年 11月 11日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30名	(回答者数) 23名
○従業者評価実施期間	2025年 10月 21日 ～ 2025年 11月 11日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数) 11名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 10月 21日 ～ 2025年 11月 11日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	1. 子どもの最善の利益を重視した支援姿勢 職員全員が「子ども第一主義」を大切に、子どもの最善の利益を常に考えて支援に取り組んでいます。5領域に基づく療育プログラムをPDCAサイクルで運用し、質の高い支援を継続的に実施しています。	1. 子ども第一のプログラムづくり 5領域を意識した計画と、振り返りを伴うPDCAの実施により、子どもの成長に合わせたプログラムの工夫を日常的に行っています。また、各種検査を基にしたアセスメントも半年、1年の計画を基に実施しています。	1. プログラムの質向上に向けた研鑽の継続 5領域の評価と改善を繰り返しながら、より効果的で個別性の高いプログラムへと発展させていきます。
2	2. 情報共有の質を高めるための仕組み化 カンファレンスや朝礼終礼、そこに限らず適宜実施される話し合いの記録の共有を徹底し、支援方針の統一と安全管理の向上に努めています。	2. 情報共有の質を高めるための仕組み化 こまめな話し合いや記録の共有を徹底し、支援方針の統一と安全管理の向上に努めています。	2. 連携・共有体制の強化 情報共有の方法をさらに見直し、誰が支援に入っても質が担保される体制づくりを進めていきます。
3	3. 多職種連携による専門的な療育の実施 他分野で経験を積み、更に勤めながら実践と学びを深めつつ保育士や福祉系資格を取得した方、OTやST、心理士と専門職が在籍していることから、多職種が連携し、子どもの特性に応じた専門性の高い療育を提供しています。子どもの気持ちや保護者の立場に寄り添う姿勢を職員全員が大切にしています。	3. 多職種間での視点の統合 専門職それぞれの視点を持ち寄り、子どもの課題や得意性を多角的に捉えた支援計画づくりを行っています。	3. 専門性向上のための学びの強化 多職種連携をより深め、職員の専門性向上に向けた研修や学びの機会を増やし、子どものニーズに幅広く対応できる事業所づくりを目指します。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	1. 保護者が相談しづらいと感じる場面があること アンケートにおいて、相談したいことがあるが話しづらいと感じている保護者がいらっしゃる事を知り反省しております。当事業所が一番大事にしている相談体制の周知や利用しやすさに改善の余地があると考えています。	1. 相談の場・方法の明確化が不十分 相談できる窓口や方法が、保護者に十分伝わりきっていなかった可能性があります。また、保護者が話しかけやすい雰囲気づくりがさらに必要であると考えています。	1. 相談しやすい環境づくりの強化 相談窓口や相談方法を明確にし、定期的に案内を行うとともに、保護者が声をかけやすい雰囲気づくりを職員全体で意識していきます。
2	2. 家族支援プログラムの周知不足 ペアレントトレーニング等の系統的・継続的な家族支援プログラムが実施されていないとの認識を持つ保護者がいることから、説明不足や情報提供の不十分さが課題となっています。	2. 家族支援に関する情報提供の不足 ペアレントトレーニング（1回 1.5～2.5 時間の講座を5～10 回連続で保護者が受講し、講義とワークを通して子どもの行動理解や肯定的な関わり方を学ぶプログラム。ペアトレで学んだ内容を家庭でホームワークとして実践し、次回の講座で振り返りを共有することで、実生活に役立つスキルを身につける）は現在実施できる職員に限られており、また、ご参加される保護者様のご希望がありません。ペアトレの説明や実施機関のご紹介、また当事業所で行っているペアトレの要素を含めた面談内容であることの事前説明の不足が考えられます。	2. 家族支援に関する情報提供と“学びの場”の充実 これまで個別面談の中で実施していたペアレント・トレーニング（ペアトレ）の要素を、より体系的に整理し、複数の保護者が参加できるグループ形式のペアトレ・プログラムとして整備していきます。ペアトレは、子どもの行動理解、肯定的な関わり方、適切な指示やほめ方、困った行動への対処法などを学べる有効な方法であるため、今後は継続的に学べる機会として提供し、保護者のニーズに応じた子どもへの肯定的な関わり方の向上と不安軽減につなげていきます。

3	3. 事業所の取り組み内容の周知不足 HUG等で広報を行っているものの、療育プログラムや避難訓練など、丁寧に取り組んでいる内容が十分に伝わっていないとの課題があります。	3. 情報発信の工夫不足 HUGを活用しているものの、掲載内容の分かりやすさや発信頻度、伝わり方に改善の余地があり、積極的な広報につながっていなかったと考えています。	3. 事業所の取り組み内容を積極的に発信 HUG等の広報ツールをさらに活用し、療育プログラム、避難訓練、支援方針など、日々の取り組みを分かりやすく定期的に発信していきます。事業所の活動がより正確に伝わるよう工夫し、保護者との信頼関係の強化につなげます。
---	---	--	---

保護者等向け 放課後等デイサービス評価表

公表日: 2025年12月1日

事業所名: 放課後等デイサービス 学校法人子どもの森 発達支援 SmileOn

対象人数(保護者)30人 回答者数 23人 回収 76.7%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	① こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	17	4		2		
	② 職員の配置数は適切であると思いますか。	21			2		
	③ 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化されていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	17	2		4		
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	22			1		
適切な支援の提供	⑤ こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	20	2		1		
	⑥ 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	22			1		
	⑦ こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画(個別支援計画)が作成されていると思いますか。	22			1		
	⑧ 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	21	1		1		
	⑨ 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	23					
	⑩ 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	18	4		1		
	⑪ 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	8	7	1	7	それを求めています	

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
保護者への説明等	⑫ 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	22	1				
	⑬ 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	22	1				
	⑭ 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	12	7	2	2	もっと話を聞く機会がほしい	現在、家族が参加できる研修会やペアレント・トレーニングの開催は行っておりませんが、個々の保護者の方の相談内容に応じて、必要な情報提供や家庭での関わり方に関する助言など、個別に家族支援を行っております。 いただきましたご意見を基に、今後は、保護者の皆さま同士が学び合えるような集団形式でのペアレント・トレーニングや、家族向けの研修会の開催についても検討し、より充実した家族支援が提供できるよう取り組んでまいります。
	⑮ 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	22	1				
	⑯ 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	21	1		1	聞きたいが聞けない。	保護者の皆さまが相談したいことを気軽に話しいただけるよう、面談の機会を随時設けております。ご要望やご心配ごとがある場合は、遠慮なくお声がけください。事前にご連絡をいただければ、いつでも時間を調整してお話を伺います。また、相談しやすい雰囲気づくりに引き続き努めてまいります。
	⑰ 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	22			1		
	⑱ 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	10	5	2	6	きょうだい同士についてはわかりません。	保護者同士が交流できる機会を設けていますが、周知が十分でなかったため、今後は事前告知の方法を見直し、より多くの方に参加いただけるよう改善してまいります。また、きょうだい向けのイベントについては『座談会』等のなかでお話する機会を作っておりましたが、開催名を明確にしていなかったことから、周知方法の改善やきょうだい同士の交流の機会は大切であると考えております。今後は開催回数を増やし、開催名を明確化し、きょうだいの含めた家族支援の充実に努めてまいります。
	⑲ こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	20	1	1	1		
	⑳ こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	21	2				
	㉑ 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	21	1		1		
	㉒ 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	20			3		

		チェック項目	はい	どちらとも いえ	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
非常時等の対応	㉑	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	18	3		2		
	㉒	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	19	1		3		
	㉓	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	19	3		1		
	㉔	事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	18			5		
満足度	㉕	こどもは安心感をもって通所していますか。	23					
	㉖	こどもは通所を楽しみにしていますか。	21	2				
	㉗	事業所の支援に満足していますか。	21	1		1	これから年齢が上がって(中学生など)いく時の支援がどうなっていくのか、気になっている。	今後、お子さまが中学生などの年齢へと進まれる際の支援内容についてご心配の声をいただきました。当事業所では、発達段階や学校生活の変化に応じて、支援内容を随時見直し、必要なサポートを継続して提供できるよう取り組んでおります。中学生以降も、学習面・生活面・社会性の向上など、お子さまの成長に合わせた支援を充実させていく予定です。不安な点やご希望がございましたら、いつでも遠慮なくご相談ください。